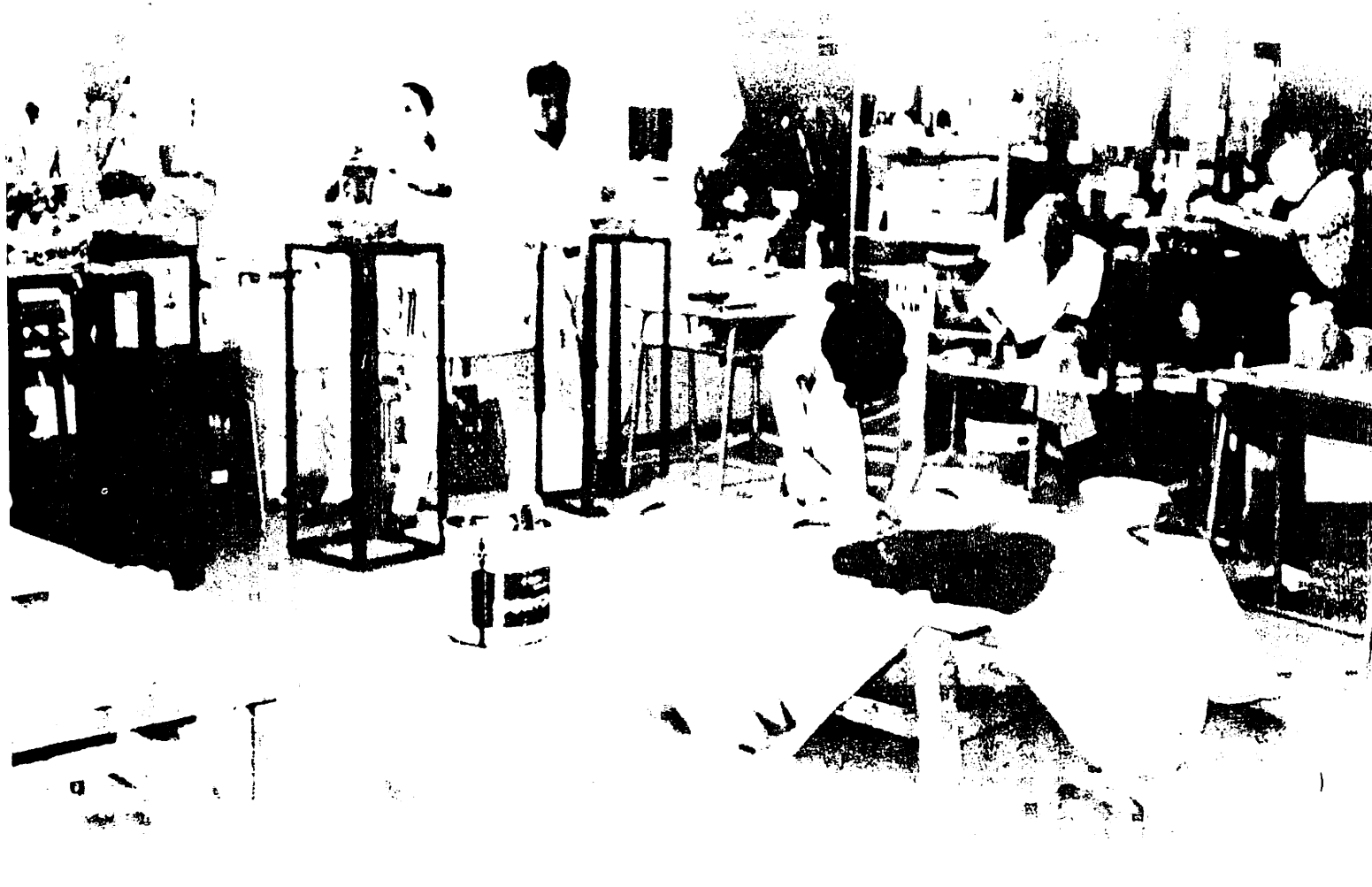


# 教育センターだより

(題字揮毫)  
山岡 所長



想像と創造・高等学校芸術教育研修講座（美術）

## も く じ

「新しいスタートにあたって」 .....	2
「三カ月を過ごして」 .....	2
委員会の動き…その1 .....	3
研修部アラカルト .....	4, 5
「心の教育」を推進する先生たち .....	6
研修講座…受講生の声 .....	7
秋田県教育センター機構と担当者一覧 .....	8
告知板・編集後記 .....	8

— 第 37 号 —

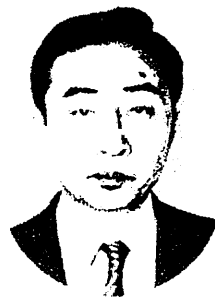
昭和61年7月15日

秋田県教育センター

秋田市仁井田緑町4番2号  
☎ (0188) 32-3594

# 新しいスタートにあたって

秋田県教育センター所長 山 岡 雄 平



秋田県教育センターはこの四

月、機構改革によって装いを改め、新しいスタートをきったところである。情報処理教育研修部の新設、特殊教育センターの統合など一新が図られた。

時代の要請ともいえる情報処理教育への積極的な対応、既に策定された「秋田県教職員研修体系」による研究、研修の一層の充実を期することなど、目指すところは極めて重大であるが、その成果は、全県下教職員の方々のこれまで以上の協力をいただくことによるのはもちろんである。

現在、国を挙げて教育改革の論議が進められ、とりわけ「教員の資質向上」への期待も高まる中で、教育センターの果たす役割がいよいよその重要性を増し

てきていることを痛感している。

そのときに当たって、何よりもここを訪れた教職員一人一人が新たな自信と使命感に等しく身を充足させて学校に帰ることを保証出来る、文字通りの教育のセンターでありたいと思う。

観世流能楽師範である中森晶三氏が何かの本にこんな趣旨のことを書いておられた。

「稽古と教育の決定的な違いは、稽古は出来ないから習う、出来たらほめられる、そして出来るまでやらされるのに対し、教育の場では、出来るのがあたりまえ、出来ないれば叱られる。それでいて出来ないままでもなんとなく通り抜けてしまう。分かるまでやらせ、出来たらほめられるというのがほんとうのやる気をつくり出すことになるのではないか。」

いわば専門外の人の言葉ながら、ずしりと響くものがある。学校教育の世界から、こうしたたてまえとあいまいさ(甘さともい( )を拭いさることは難

しいことなのかもしれないが、それを左右する決め手となるのは、まず、教育に当たる教師自体が子供たちのやがての変化成長を信じてそれを辛抱強くどれほど待つことが出来るかどうかのように思う。それに加えて、子供たちとの出会いについてどれほど真摯であり得るかであろう。かけがえのない成長期にある子供たちとの日々を「一期一会」ととらえて燃焼させることが出来るかである。

しかしながら実際には、そうした心や態度を持ってない、持ちにくいようにさせる要因も少なくない。熱心であればあるほど陥りがちなあせり。周囲の協力態勢の不足からくる不安。方法・手だてが明確でないところからくる見通しのなさ。結果の責任のみを追求するような状況。どうでもみんなと一線に並ばせたいがる画一的平等意識など。

教育センターは研修講座の開設が今盛りである。受講に懸命の先生方の表情を拝見しながらそれにつけても、その自信と使命感を支えるこうした心や態度の回復に大きく深くかわるこの意義の重さをかみしめている昨今である。

## 三カ月を過ぎして

教職研修部長 長期研修員

大 里 廣 明

窓から見える太平山の頂きの変化に、三カ月余の時の流れの早さを感じている今日この頃です。

四月は、現場と違うセンターの静粛さに戸惑いながら、講座の準備に一カ月を過ぎました。ここで感じたことは、仕事に取り組むにあたっての正確さ、慎重さでありました。当然のこととは言え、一字一字への気配り、文章内容の検討など、今までのかに現場で、ずさんなことをしてきたものかと、深く反省させられました。

五月・六月と講座が始まり、受講に来られた先生達の明るい話し声、また、数年振りに会うかつての同僚：やや現場の感覚を取りもどしつつあります。

講座の山場も過ぎ、これから研究中心の生活となり、いままでの教員生活の怠慢に苦しむ毎日となりそうです。

# 委員会の動き…その1

## 研究活動の充実と 組織的な運営

(研究推進委員会)

教育センターの研究活動をより充実させ、組織的な運営を図るため、昨年度までの「教育課題調査研究委員会」を「研究推進委員会」と改称した。その主な業務は次のとおりである。

(一)教育センターとして、学習指導、生徒指導、その他の領域についてどのような研究課題と取り組むべきかを検討する。  
(二)個人、共同、部、プロジェクトチーム等、研究を進めていくための組織づくりを行う。

(三)発表会、刊行物等、研究した成果をどのように発表したらよいかを検討する。  
(四)調査対象の検討、依頼、処理、経費等、研究の実施に当たっての諸調整を行う。  
(五)本庁各課からの調査依頼に対応する窓口となる。

(六)その他必要な事項について協議する。  
以上のように業務をすっきりした形に整理したので、一段と活動しやすくなった。

研究推進委員会は、教育センターの研究の推進役として研究活動の充実に努力し、広く県内教職員によりよい情報や資料の提供を図ることに努める。

構成メンバーは、各部主任指導主事5名である。

## パーソナリティの変容を促す かかわりを求めて

(生徒指導調査研究委員会)

昭和58年に「生徒指導に関するプロジェクト」として発足してから、59年には「生徒指導に関する調査研究委員会」に改称され、60年になって現在のような名称となった。この間、構成員は任命であったり、希望であったり、その都度委員会の性格にも若干の違いはあったが、基本的には①全国教育研究所連盟(全教連)への協力と、②教育現場が当面している児童・生徒の問題行動について調査研究し、その成果を還元することを中心に活動してきた。

昨年度の活動は、①として「生徒指導の推進に関する総合的研究」のために実施した教員の意識調査に協力、全国的規模でまとめられ、資料として提供された。また、②の教育現場のニーズに応え、地域に密着したセンター独自の活動として、いじめや登校拒否の今日的課題を中心に、異性交遊や万引の問題も含めて、委員各自がテーマをもって研究したものをQ&A方式にして、59年度の「子どもへのかかわりを求めて」の内容を補足する形で「そのII」を発行することができた。

本年度の活動としては、①今年から新しいテーマで研究を開始する全教連へはC方式(共同研究への協力県)で参加し、②としては、児童・生徒が抱えている諸

問題についての理解を深め、その対応について、児童・生徒のパーソナリティの変容を促すような幅広い面からのかかわり方をテーマとして、さらに研究を進めていきたい。

## 個人差に応じる 学習指導

(学習指導調査研究委員会)

当委員会は、本県の当面する教育課題である個人差に応じる学習指導のあり方について、昨年度に引き続き調査研究を行う。

個人差に応じる学習指導は、従来からしばしば強調され、研究もされてきた。しかし、それらは、一斉指導の中で達成度の差に配慮し、遅れがちな子供にも最低の達成目標まで近づけようという研究が主であったと思われる。基礎的・基本的なことから子供一人ひとりに確実に定着させることは極めて大切なことであるが、それとともに、それぞれの個性を望ましい方向に伸ばすこともまた重要なことと考える。

個人差の問題を中心に据えて、一人ひとりの能力・個性を十分生かすためには、授業をどう設計し、どう展開していけばよいか等を、中学校の学習指導を対象に研究を進めていきたい。

なお、その成果は、「個人差に応じる学習指導の進め方―中学校編―」(仮称)として刊行の予定である。

# 教職研修部

教職研修部は六月が研修講座のラッシュである。

毎週切れ目なしに各新任研修が続く中で、人数も多く講師陣も多彩で、難儀なことも伴う半面、やり甲斐のあるのはなんと、いつでも新採用教員研修講座(新採研)である。わけでも、小学校新採研のときは、若々しいフレッシュな先生方がセンターに満ちて、所内もはなやいだ雰囲気になる。

○ 今年は総計二八八人と多く、二班編成で行い、六月十一十三日にかけて前期を終了した。その受講風景の中からいくつかを点描してみる。

○ 朝、県内各地から続々やってくるが、その七割は車である。研修員の先生の誘導によって駐車場に納まった有様は壮観である。年々いい車に乗ってくるね”とはある部員の弁。

○ 「学級経営」は、ベテランの先生方が講師になって各自の紹介や悩んでいることなどの話し合いが中心。子どもたちが騒がしくて授業を始められないという悩みに対し、講師の先生「ま

ず私はうたを歌わせる。」「オルゴールを静かに鳴らしてみる。」「に皆、なるほど。」

小グループの話し合いに一緒に入って経験談を語った講師の先生が「私もそろそろ教師をやめようかと思っているところ...」と言ったら、「先生、やめないで」と言われたそうで、新採の先生たちにお礼を言いたかった程とたいへん感激の御様子だった。

○ 新採用の方にとって最も頼りになるのは、身近にいる学年の先生である。先輩の先生から「あなたは、私よりずっと経験も少ないのだし、間違っても前、気にしないでどしどしやりなさい」と励まされたという話や、「私はもう退職も近いことだから、自分が今までやってきたことを全部あなたに教えていくからがんばって」と言ってくれたという話など。教師は学校で育つものであることを改めて感じる。

教職研修部は、今までの経営研究室に、道徳、特別活動、生徒指導、**育相談**

のスタッフを加え総勢八人(指導主事五、長研三)である。太平山を眺望できるセンター正面二階のへやで仕事に精を出している。

# 教科研修部



結する基礎的な技法・技能を高める実技研修にウェイトを置いている。本年度新設した高校芸術(美術)には洋画家紺野五郎先生(クロッキーと油彩の制作)をお迎えした。

各教科とも、指導内容の取り扱いと学習指導法の改善を目標として講座内容の一層の充実を図っている。

国語、社会、算数・数学では、学習指導理論、教材研究を主軸に講座内容を組んでいる。

講師として、小学校教科教育では宮城教育大渋谷孝教授(読解指導方法論批判)、高校社会では東北大板倉勝高教授(地場産業を取り入れた郷土学習)、高校数学では奈良教育大平林一栄教授(最近の教育と高校数学)をお招きして密度の濃い講座となるように配慮している。

音楽、図工・美術では、表現活動を重視する方向で、**柔に直**

エリダン・ピーターソン助教、義務教育課英語指導助手などの方々を予定している。

理科では、直接経験を重視し、発達段階に即した豊かな学習指導の展開がなされるように、講座の重点を地域や身近な素材を生かし、授業に直結する観察、実験や指導法の習得におき、講座の内容を精選した。理科経営は小・中合同、地区巡回となり、地域課題を取り上げて研修を深める。天体観測は星野写真撮影のため秋田市太平貝の沢で実施の予定である。高校理科教育には、秋大滝沢行雄教授、東北大金属材料研究所長鈴木進教授をお迎えする。教具製作は放電タ

# ラカルト

イマー、ガラス細工、プレパ  
ート作りを班別で行う。

技術・家庭科では、小・中・  
高ともに実技と指導力の向上を  
図ることをめざして、新しい教  
材・教具等を取り上げるなど、  
工夫をこらした内容にしている。

## 情報処理教育 研修部

新しい時代に即応した教職員  
研修と、高度情報化社会に積極  
的に対応していくため、「情報  
処理教育研修部」が新設されま  
した。特にコンピュータ・リテ  
ラシー教育の充実が叫ばれて  
いることから、これに呼応する  
教職員のコンピュータ研修の核  
となるものです。また教育工学  
に関する事業も担当します。

この部には部長1、主任指導  
主事1、指導主事3、長期研修  
員1の計6名のスタッフが配属  
されています。施設設備は順次  
整備拡充の予定ですが、パソコ  
ンを新たに21台導入して事業を  
推進して行きます。教育工学関  
係の施設設備は、従来のものを  
引き継ぐことになりました。  
今年度のコンピュータに関する  
研修講座は19を計画していま

すが、 ずれも  
満員の申込みを  
いただいております。内容は段  
階別に研修でき  
るようにしたり、  
教科毎の教材、  
ワープロ等受講  
者のニーズに応  
えるように工夫  
しています。

教育工学関係は基礎的技能的  
習得を図る内容の講座を4講座  
設定しています。



コンピュータの教育メディア  
としての活用の仕方やソフトウ  
エアの開発等、今後研究を進め  
ていかなければならない分野が  
多くありますが、年次的な計画  
で研究開発を推進していこうと  
しています。特にCMI、CA  
I教材のソフト開発、全国的な  
情報収集と整理検索の方法の開  
発等が中心になります。教育工  
学では学習指導法のシステム化

# 研修部

を目指して研究を推進 します。

一方、近い将来全国的に情報  
を収集し、これを県内各学校に  
提供していくためのネットワー  
ク化を進める必要があります。  
とりあえずパソコン通信を中心  
に可能な範囲で情報収集、提供  
をして行く考えです。

皆様のご支援をお願いします。

## 特殊教育 研修部

機構改革により「特殊教育セ  
ンター」が、教育センターの一  
研修部として事業を行うこと  
になりました。倍旧のご支援をお  
願いいたします。

名称「秋田県教育センター  
特殊教育研修部」  
担当業務「特殊教育・教育相談」

別棟になっておりました特殊  
教育研修部へ「渡り廊下」が設  
置されました。所員はもちろん  
のこと研修講座に來所する先生  
方も大変便利になりました。文  
字どおり総合的な教育センター  
としてスタートした訳です。

「あの廊下が出来たことは、  
単に物理的なことだけではなく、  
あの廊下が出来たことによつて

これまでにない新しい教育セン  
ターに生まれ変わる(夢のかけ  
橋)と考えたい。その生まれ変  
わりを私達所員が造っていかな  
ければならない。」と、月例の職  
員集会で山岡所長が話されました。  
また、「単に機構改革という  
だけでなく、それを土台として  
相乗作用の力が発揮できるよう  
な体制を作り、これまでと異な  
った発想と協力のもとに新生教  
育センターの使命が十分果たせ  
るようにしなければならぬ。」  
と説かれました。

私共はこのことばを十分かみ  
締めて精進しなければならぬ  
と思ひます。

○ ○ ○ ○ ○  
今年の努力事項は、  
ア、現場のニーズに応える研修  
講座にするよう見直しを図る。

イ、障害児の教育相談のあり方  
について共同の研究を進める。  
ウ、学習会を通して特殊教育及  
び教育相談についての専門的な  
知識、技術の研さんを積む  
(嘱託医による障害の基礎学習、  
障害に応じた教材教具の開発工  
夫、心理療法の基礎研究、事例  
研究、施設及び特殊教育諸学校  
の参観、現場との交流)など  
です。

今年度の講座が始まって間もない日のことです。模様替えをした第四研修室から、大きな拍手の音が聞こえてきました。その日、第四研では、教育工学基礎研修講座が開かれており、二日目の内容である「学習プログラムの作成」の演習が行われていた時間帯でした。何の拍手かなと思議に思っていたら、その後も十分間隔で数回続きました。あとで担当の指導主事に聞いてみたら、各グループで作成したプログラムの発表し合っていた時、自然に沸き起こったということでした。

その拍手は、プログラム作成の苦勞に対するねぎらいの意味を持ったものであり、参考になったことや教えられた点の多かった事に対する感謝の気持ちの表明であり、出来栄へのすばらしさに対する賞揚のためのものであったことがあとでよくわかりました。受講の先生方の温かい気配りと善意に満ちた態度に心を打たれ、深く考えさせられました。

そのことがあつて五日後の、

## 随想・リレーコーナー

# 「心の教育」を推進する先生たち

秋田県教育センター次長 藤原立宏

小学校教科研修講座二日目の朝のことです。玄関の受付の所で、花を手にした受講者と会いまして。ちよつと異様に感じたので、失礼と思いつつ、とっさに「先生、その花は…」と聞いてしまいました。その先生は笑顔で、「部屋に飾ろうと思つて…」と

「部屋に飾ろうと思つて…」と  
 一言いい残して  
 立ち去りました。  
 一日目の講座が、  
 受講者の皆さん  
 に喜んでいただ  
 けたのだろうか、  
 そのお礼かな。  
 研修の部屋が殺  
 風景なのに気付  
 かれて、明るく  
 してやろうと思  
 つて持つてきて  
 くれたのかな。  
 あの先生は花が  
 好きで、学校や  
 教室をいつも飾  
 っているのかな、  
 などといろいろ  
 る思いを巡らして  
 みました。

講座が終つて一週間ほど経つた頃、研修室をのぞいてみたら、主の居ない（出張中）部屋の中で、先生の心のこもつたミヤコワス、清楚に咲き続けていま

した。

○ ○ ○

秋田県では今年度から、「心の教育」の推進を共通実践課題として掲げ、一つの県民運動としてその徹底を図つていくことになりました。ところが、県では既に「学校教育が目指すもの」として、昭和五十三年から四年間「心豊かな人間を育てる学校教育」を、また、五十七年から「人間性豊かな児童生徒の育成」を唱えてきているのです。

心の教育をうたつて九年間、鋭意その具現化に努めてきたわけですが、教育現場はこれと裏腹に、子供たちの心のすきみから生ずるいろいろな問題が発生し、それへの対応に苦慮してきております。

一体、これだけ長期間取り組んで努力してきたのに、成果が上がらなかつたのはなぜであつたでしょうか。

学校ではいま、何をしなければならぬのか、そして、教師はどんな姿勢でその指導にあたらなければならぬのかを、強く問われている時だと考えます。

○ ○ ○

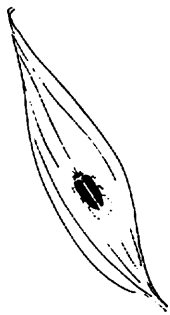
一人ひとりの子供たちを大切にし、その人間的成長 心から

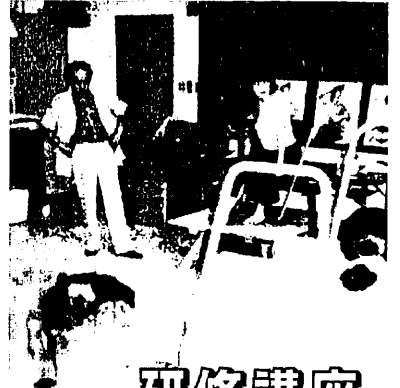
願う教師、温かい心を持つて子供の気持ちを理解しようと努力する教師、感動体験を大事にしながら、熱心に指導にあたる教師……こうした教師が居て、このような雰囲気や充満している学校であれば、間違いなく「心の教育」は推進できると思ひます。

前に、受講者の皆さんの温かい配慮と善意によって、研修の場が明るくなった二つの例を述べました。

おそらく、グループの発表に拍手を送つてくれた受講者の皆さんは、それぞれの学校でモラルの高い学習集団づくりをしなから実践を深められているだろうし、花を飾つてくださった先生も、きつとすばらしい学級経営をされていることでしょう。

秋田県の「心の教育」は、このように心豊かで善意に満ちた先生方によって支えられ、推し進められ具現化されていくのだと思ひます。





## 研修講座 受講者の声

### 小学校教科教育 研修講座を受講して

一日目の講義には深く感銘しました。国語に対する根本認識に今まで誤りがあったのではな  
いかと反省させられました。

高学年の説明文の指導をもう  
少し拝聴したいくらいでした。  
算数の講座も、理論とともに具  
体的な教材をあげての説明があ  
り、今後の参考になりました。

二日目の講義のあとの話し合  
いの時間を設けていただいたの  
はとてもよい企画だと思います。  
センターというとかたいイメ  
ージがあり、遠慮しがちだった  
のですが、気軽に受講する気持  
ちになると、とても勉強になる  
ことが多いとわかりました。昨  
年の複式での受講の勉強がその  
あとの一年間に大きなプラスに  
なつたので、今年度も希望受講し  
ました。このあとも教科研修を受

したいと思っております。  
〔羽後町立軽井沢小学校  
飯塚 仁志〕

### 特殊教育新担任研 修講座を受講して

教職について全くはじめ  
てのこの種の研修講座、一  
日目の午前中の鈴木先生の  
豊かな経験にもとづくお話、午  
後の中村先生の講義、そして二  
日目の養護学校の授業参観、不  
幸にして各種の障害をもって生  
まれた子供たちのために努力し  
ている先生方の姿を見て、その  
労苦に対し全く頭のさがる思い  
がしました。

「教育の本質は何か」「人間  
とは何か」を考えさせられた貴  
重な二日間の研修でした。明日  
からの実践に少しでも生かして  
いきたいと思えます。

〔湯沢市立山田中学校  
後藤 貞一郎〕



### 研修講座を受講して

性教育は子どもの心身の成長  
に即して、家庭・社会・学校で  
分担すべきでしょうが、現状で  
は、学校教育への期待が大きい  
ことは理解できます。しかし、  
意識や内容が必ずしも明確にさ  
れていない上、学校で、いつ、  
どこで、だれが指導するかの方  
置づけのあいまいさから低調に  
なっているものと思えます。

子どもの訴えに対して、なん  
らかの尺度をもち、その善悪、  
妥当性、他者との比較を行うこ  
となく、訴えそのものを受けい  
れていこうという、共感的理解  
とカウンセリング・マインドの  
理解はよく分かります。しかし、  
そのすべてを学校現場の実際  
に つなげるのはむずかしいと思  
います。

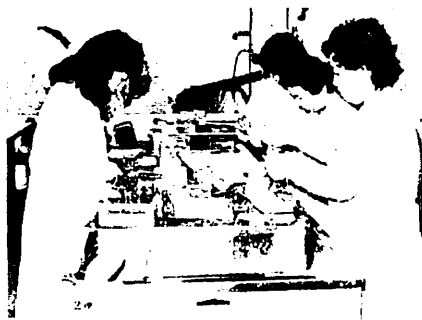
講義、研究協議でも、貴重な  
研修ができました。  
〔大曲市立大曲中学校  
遠藤 裕吉〕

### 小学校実技講習(図工) を受講して

藤田嗣治の大壁画「秋田のま  
つり」を背景に話される講師の  
言葉にも実感がこもっている。

センターを脱け出し、平野美  
術館で行われた実技講習である。  
いくら絵についての知識が広  
い人といえ、それを他の人に伝  
えることができる範囲は限られ  
ている。やはり、その絵に勝る  
ものはないのである。「百聞は  
一見にしかず」とは、まさに、  
このことである。

センターに帰り、児童の絵を

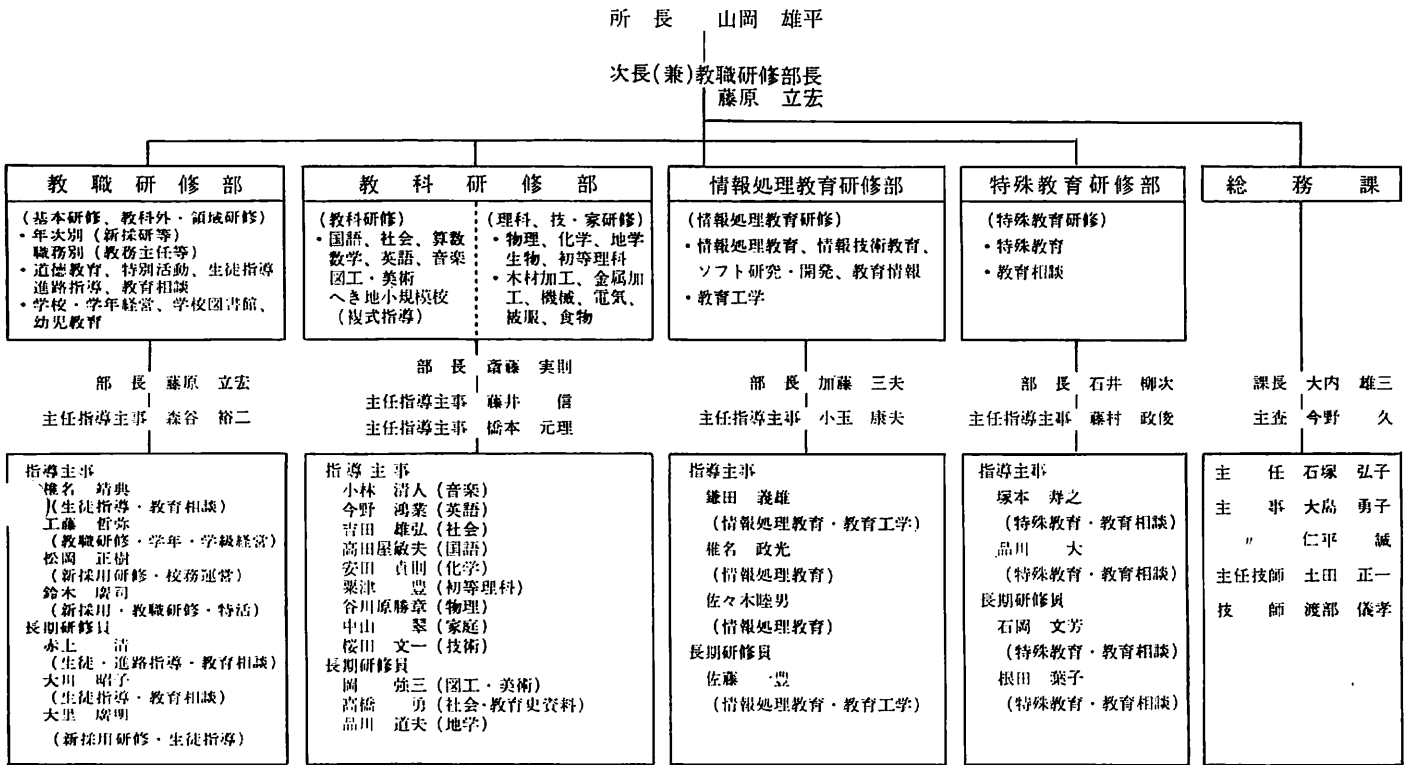


目の前にしながら、絵の見方や  
指導法についての話し合い。そ  
れに、電動糸のこを使いそれぞ  
れのアイデアを取り入れた動物  
パズルの製作。現場へ帰ってす  
ぐにも実践できるような内容で  
あったことがうれしい。とりわ  
け、平野美術館を利用した今回  
の試みには大いに感謝したい。

〔南外村立南外西小学校  
岡 隆造〕

○教育センターの機構が次のように変わりました。

◇ 秋田県教育センター 機構と担当者一覧 ◇



人 事 異 動

〈 転 出 〉

科学技術研究部長	日景善右衛門	県立船川水産高校校長へ
総務課課長補佐	渡辺孝一郎	福利課課長補佐へ
教科研究室長	高橋彰三郎	県立秋田工業高校(定)教頭へ
教育工学研究室長	畠山 陽一	大正寺中学校教頭へ
経営研究室指導主事	越中敬次朗	大湯中学校教頭へ
理科研究室指導主事	鎌田 武美	県立本荘高校教諭へ
経営研究室指導主事	阿部 正紀	高校教育課指導主事へ
理科研究室指導主事	高橋 幸臣	高校教育課指導主事へ
総務課技師	加藤 五郎	生涯教育センター主任技師へ

〈 転 入 〉

所 長	山岡 雄平	県立仁賀保高校校長から
次長(兼)教職研修部長	藤原 立宏	飯田川小学校校長から
情報処理教育研修部長	加藤 三夫	県立中央高校教頭から

教職研修部指導主事	工藤 哲弥	能代第一中学校教諭から
教職研修部指導主事	松岡 正樹	県立秋田高校教諭から
教科研修部指導主事	高田屋敏夫	県立秋田高校教諭から
教科研修部指導主事	谷川原勝章	県立能代高校教諭から
教科研修部指導主事	桜田 文一	泉中学校教諭から
情報処理研修部指導主事	佐々木陸男	県立仁賀保高校教諭から
総務課主査	今野 久	県立体育館主査から
総務課主任技師	土田 正一	向浜スポーツ公園管理事務所から
長期研修員(教職)	大里 廣明	花輪第一中学校教諭から
長期研修員(教科)	高橋 勇	御野場中学校教諭から
長期研修員(教科)	品川 道夫	天王中学校教諭から
長期研修員(情報処理)	佐藤 豊	東雲中学校教諭から
長期研修員(特殊教育)	石岡 文芳	成章小学校教諭から
長期研修員(特殊教育)	根田 葉子	川西小学校教諭から

役としてご利用いただくと共に、ご意見等いただければ幸いです。

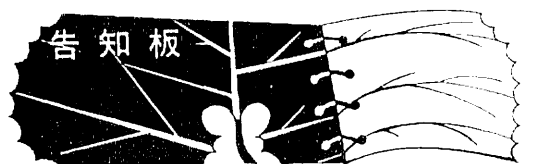
編集後記

開かれたセンターをめざし、本号から「教育センターだより」は先生方一人ひとりのお手元にお届けします。学校とセンターのパイプ

秋田県教育センター 編集後記

広くご利用くださるよう願っています。

全七巻から成る「県教育史」は第一巻から第四巻までが資料編、第五巻から第六巻が通史編、第七巻が年表統計編となっています。収集された資料の全てを当センターで保管しています。



あり、本県教育の道しるべとしての活用が期待されます。

**新設**  
 県教育史資料室  
 「秋田県教育史」が教育センターでご覧になれます。

県教育史は、県教育委員会発足三十周年記念事業として八年がかりの労作です。